

日本語の「[N+V]-する」複雑述語の形成と項実現について

大阪大学 由本陽子

1. はじめに

● 「する」と結合して複雑述語を形成できる「名詞+動詞」複合語の制約

(1) a. 健はいつも早起きする

b. 手紙をペン書きする

c. 花子はスキーに行って雪焼けした

(2) a. 石投げ*(を)する, 山登り*(を)する, 花売り*(を)する

b. *うそつき (を) する, *こま切れ (を) する, *ねじ回し (を) する

● Sugioka (2002), 伊藤・杉岡(2002)の分類

(3) [+N]をもつ名詞

a. 行為: 金魚すくい, 石投げ, 米づくり, ボタンつけ, 山登り, 墓参り, 里帰り

b. 現象: 地滑り, 崖くずれ, 雪解け, 耳鳴り, 声がれ, 胸焼け, 手荒れ

c. 動作主: 相撲とり, 風船売り, 羊飼, 人形遣い, 酒飲み, 客引き

d. 道具: ねじ回し, 霧吹き, 栓抜き, 帯留め, インク消し, 郵便受け, 水入れ

e. 特徴: 金もち, うそつき, 風呂好き, 親思い, 罪作り, 面食い, 父親似

f. 場所: 車寄せ, もの干し, ゴミ溜め, 船渡し, 水たまり, 足がかり

g. 時間: 夕暮れ, 夜明け, 夜更け, 週明け, 年明け

(伊藤・杉岡 2002:110-111)

(4) [+V]の述語名詞

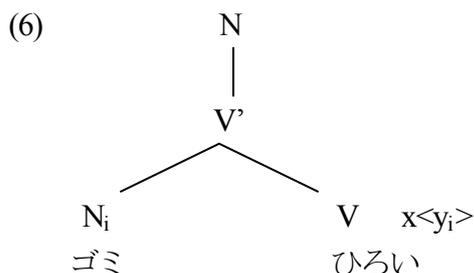
a. 水洗い, 雑巾ぶき, 平手打ち, 塩もみ, 一人歩き, ばか騒ぎ

b. 日焼け, 雪焼け, 船酔い, 仕事疲れ, ビール太り, 着ぶくれ, 寝冷え (ibid. 117-118)

(5) [-V]をもつ述語名詞

赤むけ, 黒こげ, びしょ濡れ, こま切れ, 白塗り, 四つ割 (ibid. 115)

- Vの項が複合する場合は(6)のような外心構造の名詞が作られる
→ 「行為」を表す場合でも「する」との直接結合は不可
- Vの項ではないもの, 付加詞が複合する場合はVの概念構造(LCS)を基盤として複雑述語が形成される → どの意味関数を修飾する副詞かにより異なる範疇



- (7) a. Event[x ACT (ON y) Manner / Instrument] 早歩き/立ち読み/水洗い/平手打ち (する)
 b. Event [BECOME y Cause / Manner State[BE y AT-Z]] 日焼け/若死に/立ち枯れ (する)
 c. State [BE y AT-Result]] 黒こげ/びしょぬれ (だ) (cf. Sugioka 2002)

†内項との結合によるものが「述語」を作らないとはいえない。(Yumoto 2010)

2. 日本語の[N+V]複合語

●日本語の VC と主語条件

Roeper and Siegel (1978), Selkirk (1982)

- (8) a. *The hours for [girl swimming] are restricted.
 *There's been a lot of [weather changing] around here. (Selkirk, 1982:34)
 *[boot putting] on the table (ibid.:37)
 b. *tree-falling, *subject rising, *brick-laying (Kageyama, 1985:4)
- (9) a. The SUBJ argument of a lexical item may not be satisfied in compound structure.
 (Selkirk, 1982:34)
- b. First Order Projection Condition
 All non-SUBJ arguments of the head of a compound must be satisfied within the compound immediately dominating the head. (ibid.:36)
- (10) a. 自治体の街づくり / *街の自治体づくり
 犬の無駄吠え / *犬吠え, カエル泳ぎ ≠ カエルが泳ぐこと
 b. 時間切れ, 放射線漏れ, 雨降り, 崖崩れ, 値上がり, 日暮れ
 → The external argument of a lexical item may not be satisfied in compound structure.
 (cf. Kageyama, 1982, 1985)

(11)では説明できない VC

- (11) 車の水洗い, 時計の衝動買い, 健の Pasta の早食い
 (12) 車を[[水洗い]-し]た, 時計を[[衝動買い]-し]た, 健がPastaを[[早食い]-し]た
 → 日本語には異なる条件によって形成される二種類の VC が認められる
 (see also 長谷川, 1999)

3. 複雑述語を作る [N+V] 複合語

● 付加詞と複合するもの と 項と複合するもの

(13) a. 他動詞から他動詞を作る

船に救援物資を積む→救援物資を**船積み**する

e.g. : パック詰め、船積み、車庫入れ、棚上げ、陸揚げ、油通し、湯通し

b. 他動詞から自動詞で「に」格補語をとる動詞を作る

スープに味をつける→スープ {に/を} **味付け**する

e.g. : 味付け、色づけ、意味づけ、景気づけ、動機付け、ランク付け、風入れ、てこ入れ、砂糖がけ、駄目だし、アイロンがけ

c. 自動詞の「に」「から」格補語を結合して自動詞を作る

選手がベンチに入った→選手が**ベンチ入り**した

e.g. : 親離れ、乳離れ、ベンチ入り、仲間入り、蔵入り、迷宮入り、客受け、湯あたり、食あたり

(14) a. 他動詞から他動詞を作る

山菜の灰汁を抜く→山菜を**灰汁抜き**する

e.g. : 灰汁抜き、しみ抜き、洗抜き、値上げ、値下げ、値引き、値踏み、頭だし、格上げ、格下げ、株分け、種明かし、枝打ち、裾上げ、色止め、底上げ、品定め、塩出し、幅詰め、艶出し、首切り、口止め、高さ制限、価格統制

b. 自動詞から自動詞を作る

株の値が下がった→株が**値下がり**した

e.g. : 気疲れ、気落ち、目移り、心変わり、格落ち、面出し、型崩れ、値下がり、値上がり、値崩れ、色落ち、代替わり

† 音韻的特徴からみると、両者は共通の性質

→ いずれも LCS を基盤とした複雑述語形成 (cf. Sugioka 2002)

(15) a. mado-huki / mop-buki, musu-tori / yoko-dori, mono-kaki / te-gaki

b. hako + tumeru → hako-**zume**, yu + toosu → yu-**doosi**

iro + takeru → iro-**zuke**, airon + kakeru → airon-**gake**

c. ne + hiku → ne-**biki**, haba + tumeru → haba-**zume**

kokoro + kawaru → kokoro-**gawari**, ki + tukareru → ki-**zukare**

- ① 語内に内項を実現する理由、語形成の動機付け
- ② 主要部が選択しない項をとる新たな述語を形成するメカニズム

4. 項との複合により結合価を減ずるもの

(16) Type A. Goal/Loc (Path) + Vt:

箱詰め, 袋詰め, 船積み, 湯通し, 油通し, 棚上げ, 陸揚げ
車庫入れ, 蔵入れ

Type B. Theme + Vt:

味付け, 意味づけ, 色づけ, 風入れ, てこ入れ, 砂糖がけ
荷積み, ダメだし, 景気づけ

Type C. Goal /Source + Vi:

ベンチ入り, 仲間入り, (お)蔵入り, 親離れ, 乳離れ, 食あたり

- (17) a. 船に荷物を積む 船に荷積みする / 石炭を船積みする
b. 壁にペンキを塗る ?壁にペンキ塗りする / 珪藻土を壁塗りする

4.1 Type A

- (18) a. {車を・不用品を} 車庫に入れる / {車を・*不用品を} 車庫入れする
b. 魚を湯に通す / 魚を湯通しする
- (19) a. 健は車を少しだけ車庫にいれた
b. ??健は車を少しだけ車庫入れした
c. 花子は少しだけ瓶に詰めたワインをもってきた
d. 花子は少しだけ瓶詰めしたワインをもってきた

- (20) [車庫 - 入れ]_[+V]: [x] CAUSE [[y]_i BECOME [[y]_i BE IN-[GARAGE]]]
cf. *kill*: [x] CAUSE [[y]_i BECOME [[y]_i BE AT-[DEAD]]]

† 位置の変化から一種の状態変化 結果状態が語彙化されておりしかも[-gradable]

4.2 Type B

- (21) a. イチゴに砂糖をかける → ??イチゴに砂糖がけする
b. 腐敗した組織にてこ入れする ← *組織にてこを入れる
- (22) a. 次は下絵を色づけしましょう *下絵を色をつける
b. 廊下 {こ / を} [雑巾-がけ]-した *廊下を雑巾をかける
c. 車 {こ / を} [ワックス-がけ]-した *車をワックスをかける
d. ...ホームレス連中を [景気-づけ]-する ため...

(www.asahi-net.or.jp/movie review “The man without a past”)

- (23) a. 味-付け_[+V]: [x] CAUSE [[FLAVOR] BECOME [[FLAVOR] BE AT-[y]]]
↓
b. [x] CAUSE [[y]_i BECOME [[y]_i BE WITH-[FLAVOR]]]

(24) Locatum verbs N → V

[N]_v: [x] CAUSE [BECOME [[y] BE WITH [NOUN]]]

e.g. *sugar tea*: [x] CAUSE [BECOME [[tea] BE WITH [SUGAR]]]

(cf. Kageyama 1997:56)

(25) a. We buttered the bread with soft, creamy unsalted butter.

(Jackendoff, 1990:164)

b. She oiled herself with suntan oil.

(Kageyama, 1997:57)

(26) a. 健はスープにカレーで味付けした

b. 花子は木の葉の下絵に赤で色づけした

- V の LCS 内に名詞概念を代入することによる語形成は、もともと下位の位置への代入に限られる (cf. Kageyama 1997, Yumoto 2010)

(27) a. He loaded hay onto the truck. She sprinkles water on the grass.

b. He loaded the truck with hay. She sprinkled the grass with water.

(cf. Rappaport and Levin, 1988, among others)

(28) a. load hay on the truck: [x] CAUSE [BECOME [hay_y BE ON truck]]

b. load the truck with hay:

↓

[x] CAUSE [BECOME [truck_z BE [WITH [hay_y BE ON z]]]]

The transposed structure is created by focalizing the locative noun with

BE-HAVE conversion

(Kageyama, 1997: 61)

5. 項との結合によるが結合価が変わらないもの

(29) Type D

- しみ抜き, 裾あげ, 格上げ, 底上げ, 格下げ, 値下げ, 値ひき, 塩出し, 頭出し, 種明かし, 幅づめ, 口どめ, 高さ制限, 価格統制
- 色落ち, 気落ち, 格落ち, 型崩れ, 値崩れ, 値上がり, 値下がり, 面出し, 目移り, 気づかれ, 代がわり

- これらの複雑述語が新たに取る項は?

外部表示? (Kageyama, 1999: 134-135)

所有関係から再分析の結果? (Ito and Sugioka, 2002:113)

(30) [山菜 の 灰汁]_{NP} を抜く → 山菜 を [灰汁-抜き]_V-する

主要部からの受け継ぎではない。複雑述語の「項」に違いない。

(31) a. シャツ を [しみ-抜き]-する / ??シャツ を 抜く.

b. ワカメ を [塩-出し]-する / ??ワカメ を 出す.

- (32) a. お父さんの [肩-たたき] / *お父さんの[肩-たたき]-する
 b. お父さんの [ひげ-そり] / *お父さんを [ひげ-そり]-する
 c. 母親の [墓-参り] / * 母親を [墓-参り]-する
 d. 朝顔の [種-まき] / * 朝顔を [種-まき]-する

- (33) a. 洋服の [しみぬき] / 洋服を [しみ-抜き]-する
 b. ワカメの [塩-出し] / ワカメを [塩-出し]-する
 c. セーターの [色-落ち] / セーターが [色-落ち]-する
 (身体部分名詞との複合 → § 5)

● クオリア構造を含む語彙意味表示を基盤として新たな項を獲得する語形成

Constitutive role: the relation between an object and its constituent parts

Formal role: that which distinguishes the object within a larger domain

Telic role: purpose and function of the object

Agentive role: factors involved in the origin or “bringing about” of an object

(Pustejovsky 1995:85-86)

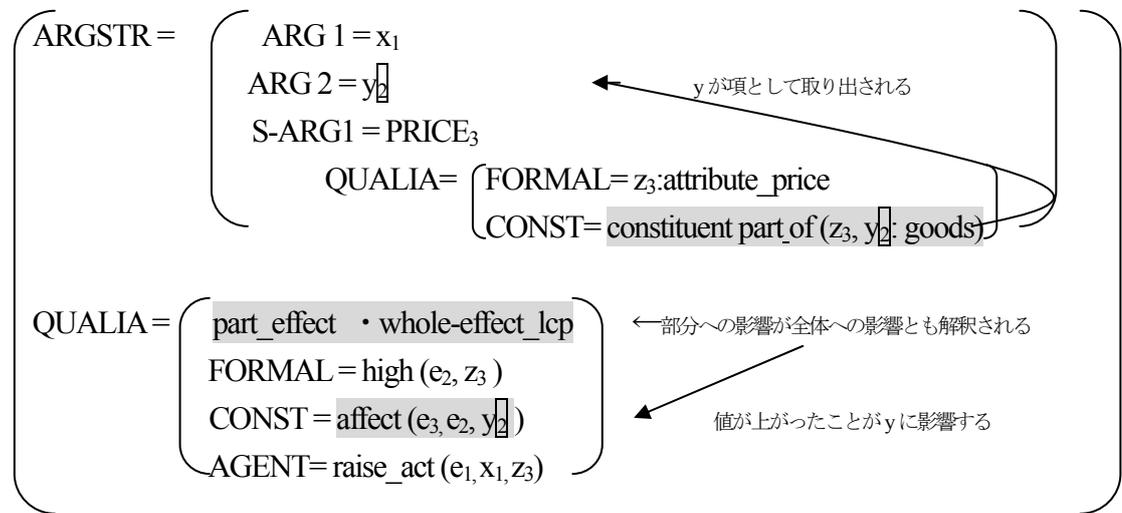
lcp: lexical conceptual paradigm that “provides a means of characterizing a lexical item as a meta-entry and capturing the systematic ambiguities...” (Pustejovsky 1995:91-93)

- (34) a. Mary painted the door. / Mary walked through the door.
 b. Mary walked through the door which I painted yesterday.
 c. **phys_obj • aperture_lcp** = {**phys_obj • aperture**, **phys_obj**, **aperture**}
 (Pustejovsky, 1995:93)

- (35) a. 値:
$$\left(\begin{array}{l} \text{ARGST} = \left(\begin{array}{l} \text{ARG1} = x \\ \text{D-ARG1} = y \end{array} \right) \\ \text{QUALIA} = \left(\begin{array}{l} \text{FORMAL} = x: \text{attribute_price} \\ \text{CONST} = \text{constituent part_of}(x, y: \text{goods}) \end{array} \right) \end{array} \right)$$

- b. 上げる:
$$\left[\begin{array}{l} \text{FORMAL} = \text{high}(e_2, y_2) \\ \text{AGENT} = \text{raise_act}(e_1, x_1, y_2) \end{array} \right]$$

(36) 値-上げ_[+V] : [x] CAUSE [[PRICE]_z BECOME [[PRICE]_z BE UP]]



(37) 部分への影響が全体への影響ともなるという両義性: **part_effect · whole-effect_lcp**

6. 身体部分名詞との結合によるもの

Type B

(38) a. 口出し、面出し、手出し、顔出し、目配せ、目配り、気配り、口添え、
思い入れ、肩入れ、手入れ、足入れ、腕比べ、手合わせ

b. 腕まくり、骨惜しみ、骨休め、舌打ち、舌なめずり、足踏み、足馴らし、腕組み

(39) a. 不満を口に出す→*不満を口出しする、論文を手に入れる→*論文を手入れする

b. 問題に口を出す→問題に口出しする、盆栽を手を入れる→盆栽を手入れする

(cf. (32))

●身体部分名詞が比喩的意味拡張を起こしている場合にのみ可

← 身体部分名詞としての指示対象をもたないとすれば、関係名詞として束縛される必要性はない。したがって、「照応の島」となる語内に編入されても問題が生じない。

(40) 口を出す : [x] CAUSE [[**OPINION**]_i BECOME [[**OPINION**]_i BE AT-[y]]]

(41) 顔に出す : [x]^α CAUSE [[y]_i BECOME [[y]_i BE AT-[**FACE**]^α]]

「顔」(FACE) が LCS で語彙的に束縛されている→

形態統語構造においても束縛される必要→語内への編入不可

(42) a. 失敗して舌打ちした / *失敗して舌を打った

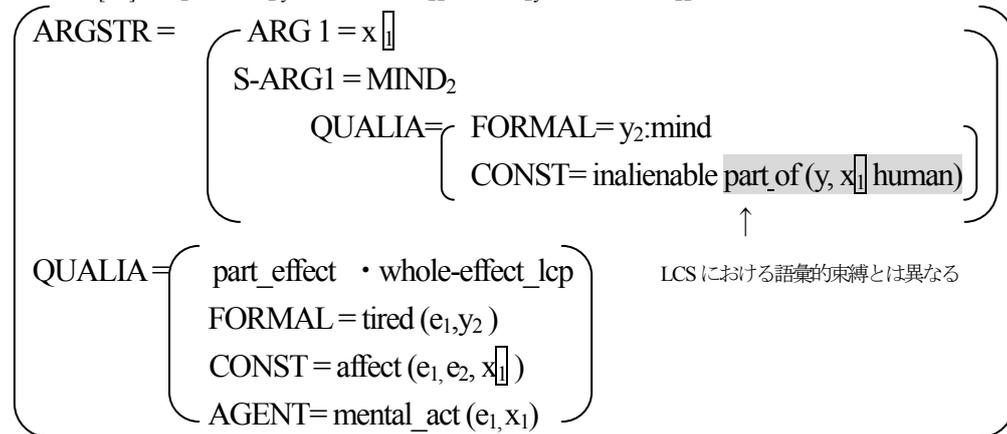
b. 思わぬ邪魔が入り計画が足踏みする / *計画が足を踏む

c. #肩を入れる、#手を当てる、*舌をなめずる。

Type D

- (44) a. 声枯れ、声変り、心変わり、胸焼け、息切れ、気疲れ、気落ち、目移り
b. 足どめ、口どめ、足切り、尻押し、頭出し

(45) 気-疲れ_[+V] : [MIND]_yBECOME [[MIND]_yBE TIRED]]



- ❖ 「気」 MIND と主語 x との関係は特質構造内で保障されるもの→
形態統語的な束縛関係を必要としない→ 身体部分の意味が保持
されていても複合により述語を作ることができる

7. 結語

主な参考文献

伊藤たかね・杉岡洋子 2002. 『語の仕組みと語形成』 研究社.

影山太郎 1993. 『文法と語形成』 ひつじ書房.

影山太郎 1999. 『形態論と意味』 くろしお出版.

小野尚之 2005. 『生成語彙意味論』 くろしお出版.

Pustejovsky, James. 1995. *The Generative Lexicon*. Cambridge, MA:MIT Press.

Sugioka, Yoko. 2002. Incorporation vs. Modification in Deverbal Compounds. *Proceedings of Japanese / Korean Linguistic Conference 10*, 496-509, CSLI.

由本陽子 2009. 「複合形容詞形成に見る語形成のモジュール性」 由本陽子・岸本秀樹 (編) 『語彙の意味と文法』 209-229. くろしお出版.

由本陽子 2010 「身体部分を表す名詞を結合した日本語の[N+V]複合語について」 宮本陽一 (編) 『言語文化共同研究プロジェクト 2009 : 自然言語への理論的アプローチ』 89-98. 大阪大学言語文化研究科

Yumoto, Yoko. 2010. Variation in N-V Compound Verbs in Japanese. *Lingua*. 120:2388-2404.